

重い事実を突きつけられた10.23「100,000年後の安全」上映会

114名で観て真剣に考え交流した、すわか文化村第24回企画



すわか文化村代表理事 毛利による事前解説

配付資料は、末尾にあり

世界では、50年間に440以上の原発によって蓄積された使用済み核燃料棒 = 放射性廃棄物を最終処分できたところが一つもなく、すべて溜っている。その最終処分場を人畜無害にできる保障がないため。だれもトイレのないマンションは造らない。今となっては、人類はとんでもない選択をしてきたものだと思う。その最終処分場を初めて建設し始めたのが、このフィンランドの「オンカロ」だが、果たして人畜無害にできるのか、それをこの映画は問うている。

ここ日本では、40年余に54基の原発から出た放射性廃棄物は、少なくともヒロシマ原爆から出た「死の灰」= 30kgの80万発分も溜っており、その多くは、全国各地の原発と六ヶ所村のプールの中に置いてある。東電原発事故のような冷却材喪失事故がいつ起きるかもしれない状態。使用済み核燃料棒のまま地下に埋設するフィンランドと異なり、燃料棒を砕いてウラン = $U235$ ・プルトニウム = $Pu239$ を抽出する再処理をしてから、残った高レベル廃棄物をガラス固化体にして300メートル以深の地下に埋める計画だが、

その再処理過程と取り出した $U235$ ・ $Pu239$ を発電に活用する「核燃料サイクル」計画が、技術的に極めて困難であり18年経っても稼働できないでいる。

300メートルの地下に埋める候補地が決まらない。それは、フィンランドのような18億年前の安定した地盤でなく、わずか170万年前以降に形成されかつ地震大国という不安定な、だか

からこそ地下水を經由しての汚染も心配される日本列島という特性もある。

核兵器の原料になりうるPu239が、46トン＝ナガサキ原爆5800発分も溜っている。日本の防衛のためには核兵器製造能力があると世界に示しておくことが必要との公式文書もあることに留意のこと。

このようななか、毎年新たな使用済核燃料棒が、(54基全期稼働すれば)毎年1000トンずつ増え続けていく。

このように、日本では、フィンランド以上に深刻な事態にある、このことを頭においてこの映画を観てください。

上映終了後、簡単な交流会を行いました。そこでも、紹介したようにこの映画は、割と簡単に**自主上映**できます(2回上映でレンタル料5万円)。配給元アップリンクにWebから申し込めます。

参加者の感想

- ・これはNHKで全国に流すべき作品だと思います。
- ・とてもよい企画だと思います。資料などで原発について、学ぶことが出来ました。この映画は、もっと多くの方々に観てもらえるようにできるとよいと思います。県内全域で出来ないでしょうか。感想 言葉に出ないほど恐ろしい原発を今まで使っていて、今後どのようにしていくことがよいのか…。原発は反対です
- ・非常に重要でタイムリーな映画だと思いました。できるだけ多くの人に観てもらいたいと思いました。(1944年生まれ女性)
- ・忘れることを忘れないように将来の人間に伝えていかなければならない、そんな歴史を残したくないとつくづく思いました。
- ・今ある現実の問題への解が必要。地下に埋める方法はベストではないが、ベターな解としては仕方ないと思う。また、先延ばしすることも許されない問題なので、何らかの解が必要。
- ・低予算でタイムリーな問題を扱った映画上映でよかったと思います。地方にいとなかなか観られないものを観る機会を提供していただいたことに感謝します。原発について、今後も考えていく材料にしていきたいと思います。
- ・結局、放射性廃棄物は安全な処分の方法がないということだと思ふ。考えられることを尽くして、それでもダメだったら仕方ないのかもしれない。ただ、一方で、私はそう先まで人類が存続しているとは思わない。地球上の無機的(生命を持たない)自然の理(ことわり)のなかでは、有機的(生命を持つ)自然はそれに従うしかない。とりあえず、人類が存続する以上は伝わる所はあるはずなので、最善を尽くすこと。そして、なりよりもこれ以上、放射性廃棄物を増やさないと考える。(1970年生まれ男性)
- ・保育園に勤めているので、子どもたちのことを重く感じられる。どうやってこれから生きていこうという気持ちになった。フィンランドの人は、しっかり考えているようでも、ヒロシマ・ナガサキの惨状を知らないのだと思う。
- ・以前からこの映画を観たいと思っていたので企画してくださってありがとうございました。観て、とても悲しくなりました。重いです。人間って、本当にどうしようもない生物ですね。バカです

高レベル廃棄物 = 海外で再処理したガラス固化体

(東海村と合わせて1,700本 = 850トン)

総計 「日本には広島原爆から生じた「死の灰」30kgの80万発分以上の廃棄物がある」

再処理によって得たプルトニウム(Pu)46トン = 長崎原爆5800発分

「原発から出たPtを核兵器への転用は困難」と言うが、IAEAが常駐して監視

生き物にとって無害の状態にできるのか

再処理 燃料棒を砕いて、Pu239・U235(ウラン)を抽出し、

残りをガラスで固めたガラス固化体をつくる(1本500kgに広島原爆30個分の死の灰)

問題 工場で大量の放射能放出の恐れ・固化体製造困難・固化体取扱困難

2003年に11兆円かかるとの発表あったが、その後も予定どおり進まず

地層処分 地下300m以深に、50年かけてガラス固化体4万本を埋め、閉鎖する

(2020年までに発生した使用済み燃料を固化体にして、

地上で50年間保管したうえ)

問題 10~100万年後の生き物に危険性を告知できるか

地下水・地震(170万年前以降に日本列島形成)

候補地も決まらず 3兆円かかる

Puの使い道

高速増殖炉 「もんじゅ」事故続きで停止中 危険なナトリウムを使用

核兵器に直ちに転用できる純度の高いPuを生産できる

プルサーマル 既存の原発で、PuとUの混合燃料(MOX)を燃やす 不安定